

第11回 福岡県地域エネルギー政策研究会 日下座長 総括コメント

- 本日、第11回福岡県地域エネルギー政策研究会を開催し、「水素エネルギー社会の実現に向けた地方の役割や取組み」について議論を行いました。
- 今回の研究会では、まず事務局から、福岡県の取組み状況として、産学官連携組織「福岡水素エネルギー戦略会議」を核として進められている「福岡水素戦略(Hy-Life プロジェクト)」の現状や成果などについて情報提供をいただきました。
- 次に、佐々木一成委員（九州大学）から、「九州大学におけるスマート燃料電池社会実証」と題し、九州大学における研究開発（基礎研究）や産学連携の取組みに加え、燃料電池の世界最速普及に向けた「水素キャンパス構想」の具現化に向けた検討状況、地域との連携状況などについて情報提供をいただきました。
- 次に、経済産業省 資源エネルギー庁 燃料電池推進室の戸邊千広室長から、「水素社会の実現に向けた取組の加速」と題し、水素社会の意義に加え、本年6月に公表された「水素・燃料電池戦略ロードマップ」に基づき、水素社会の実現に向けた課題や取組みの方向性などを具体的かつ詳細に御教示いただきました。
研究会における議論の土台となる、中長期的な視野も含めた貴重な情報を御提供いただけたと、戸邊室長には感謝しております。
- 最後に、これらの講演・情報提供を基に、①2次エネルギーである水素エネルギーを、どのように確保（製造）すべきか、②高効率な分散型電源として期待される定置用燃料電池の更なる普及促進のためにどのような取組みが必要か、③燃料電池自動車の普及と、それを支える水素ステーションの整備を一体として強力に進めるためにどのような取組みが必要か、④水素エネルギーの社会受容性を高めるためにどのような取組みが必要か、⑤水素・燃料電池分野を、世界をリードする我が国の産業の柱に育て上げていくためにどのような取組みが必要かなどについて、委員間で討議を行いました。
各委員からの積極的な意見・助言により、「水素エネルギー社会の実現に向けた地方の役割や取組み」が明確になりましたので、今後の報告・提言に反映させたいと考えております。
- 次回の研究会は10月上旬に開催し、「新たなエネルギー・電力需給システム（スマートコミュニティ）の構築に向けた地方の役割や取組み」について議論を行うこととしております。
研究会においては、国の動向等も踏まえながら更に研究を進め、福岡県の将来を大胆に見据えた意見・提言等を行ってまいりたいと考えております。